

OSCE外相理事会における榛葉副大臣発言

(12月7日(金曜日), 9:30～ 於:ダブリン)



議長,

御列席の皆様,

<冒頭・総論>

第19回OSCE外相理事会が歴史あるダブリンの地で開催されるにあたり、ギルモア議長が発揮されたリーダーシップに、深く敬意を表します。

<東アジアの安全保障環境と我が国の外交姿勢>

- 東京とダブリンは遠く離れていますが、その距離に関係なく、欧州とアジアの安全保障は分かちがたく結びついています。

- アジア太平洋地域は、今や世界の成長センターとしての牽引力を有する一方、各国間の利害関係が顕在化し、域内の安全保障環境は厳しさを増しています。
- こうした状況の下、今後数十年を見据え、「アジア太平洋地域に民主主義的な価値に支えられた豊かで安定した秩序を形成する」ことが極めて重要となっており、そのためのツールとして、我が国は、「開放的で多層的なネットワークの構築と国際法に則ったルール創り」に努め、日米同盟を基軸とし、周辺国との二国間・多国間対話を推進して参りました。
- とりわけ、海洋安全保障については、ARF等の地域協力の枠組みを活用しつつ、国連海洋法条約等、国際法に基づく海洋秩序の構築に貢献していきます。
- こうしたアジア太平洋地域における秩序形成に向けての取組みを行うに際して、包括的かつ多国間のフレームワークであるOSCEの経験は大変参考になるものであると考えています。
- なお、12月1日、北朝鮮は12月10日から22日の間に、「人工衛星」の発射を行うと発表しましたが、これは、関連する国連安保理決議に明確に違反し、本年4月のミサイル発射の際の安保理議長声明にも相容れないものです。我が国は、北朝鮮に対して発射の自制を強く求めており、OSCEの各国とも協力していきたいと考えています。

<我が国外交におけるOSCEの位置付け>

- 我が国は、パートナー国としての立場から、OSCEを民主主義的な価値に支えられた秩序を形成するためのネットワークの1つとして位置付けています。
- また、OSCEは、政治・安全保障、経済・環境、及び人権という三つの側面を包含する包括的アプローチをとっておりますが、その理念は、「人間の安全保障」を重視する我が国の外交姿勢と共通しています。
- そのため、我が国は、OSCEの活動に協力してきています。とりわけ、我が国は、アフガニスタン及びその周辺国である中央アジアの諸国における、OSCEの活動を評価しており、OSCEのアフガニスタン麻薬対策訓練教官の育成プロジェクトへの拠出をはじめとして、これまでもアフガニスタン及びその周辺国の国境管理能力向上のためOSCEと協力してきましたが、今後の協力の可能性についても検討していく所存です。

＜タジキスタンにおける女性支援分野での我が国とOSCEの協調＞

- 最後に、中央アジアにおいて、我が国とOSCEが協調して実施した援助案件の成功事例を紹介し、私のスピーチの締めくくりといたします。
- タジキスタンには、OSCEが長年支援してきたナジョティ・クダコンという団体があります。この団体は、家庭内暴力や人身売買の被害を受けた女性を支援する活動をしてきました。しかし、この団体は、設立以来、自前の拠点を持たず、小さな賃貸

アパートの一室で活動してきました。

- 日本政府は、女性支援の取組みを推進しており、OSCEとの調整の下、昨年11月、その団体のための女性支援センターの建設支援を決定しました（現在、建設中）。また、OSCEは、そのセンターの運営と能力強化を支援することとなりました。この案件は、双方が持つリソースを活用した、現地の実情に即したテーラーメイドで効果的かつ効率的な協調の事例と考えます。今後とも可能な範囲で協力を模索していきます。

<むすび>

我が国は、法の支配や民主主義等、基本的価値を共有するOSCEとの協力を維持し、引き続き国際社会の平和と安定に貢献することをお約束し、私のスピーチを締めくらせていただきます。

御清聴ありがとうございました。

（了）